

コミュニティアートを活用したまちづくりに関する研究

ーアート亀山を事例として 第2報ー

青木 繁* 小家 政之**

A study about community planning which utilized community art

- Art Kameyama as an example part 2 -

Shigeru AOKI* Masayuki KOIE**

It can say that the Kameyama-shi core city ground (Nishimachi residential area and Higashimachi mall) becoming the held place of art Kameyama is the place that is most suitable for a place holding community art project.

Most of store managers of Higashimachi mall becoming the meeting place art Kameyama start of 2008 evaluate that I got the new interchange with an artist, a guest, stores, area inhabitants by holding of art Kameyama.

It may be said that the town of the former city area contributes to social activation such as the interchange with a person and the person in making it greatly in art Kameyama that is community art project.

How you connect this with economical activation is a future problem.

Keywords: community art project, community planning, art Kameyama, social activation

1. はじめに

現代アートを活用したまちづくり・地域活性化事業が、日本国内のあちこちで行われるようになり、新たな地域活性化策として期待度も高まっている。

地方都市計画や農村計画を専門とする立場からは、これら一連のムーブメントが、小規模でも地域に根付いた、内発型、住民参加協働型、持続可能型、地域資源活用型、都市農村交流型など、いわゆるコミュニティアート型が理想と考える。

コミュニティアートは、第一次世界大戦後のイギリスに端を発し、アメリカやヨーロッパ諸国に広まったとされる。当初は演劇に親しんでもらうために観客育成を行うプログラムであったが、次第に演劇作品の共同制作を通じて、コミュニティの問題の共有化や解決を試みるようになっていった。

本報は前報に引き続き、三重県亀山市を事例に、コミュニティアートを活用したまちづくりについて考察する。

コミュニティアートは、アーティストや市民などの協働により、アートを媒介として、コミュニティの抱える課題の解決やコミュニティの新たな価値の創造をめざす活動である。アーティストが市民と協働し、あるいは彼らを指導する形でコミュニティの中で行うアート活動でもある。

本報では以下の亀山市現地調査結果を基に考察を行う。
まず、アート亀山の開催場所となっている亀山市旧市街地（西町住宅街及び東町商店街）の街空間状況を調べるため、環境点検調査及び商店分布調査を行った（2015年9月20日（日）及び10月31日（土））。

次に、まちづくりにおけるアート亀山の効果を調べるため、2014年の開催場所である東町商店街の商店等を対象にアンケート調査を行った（2016年8月1日（月）配布、8月5日（金）回収）。

2. 環境点検調査結果

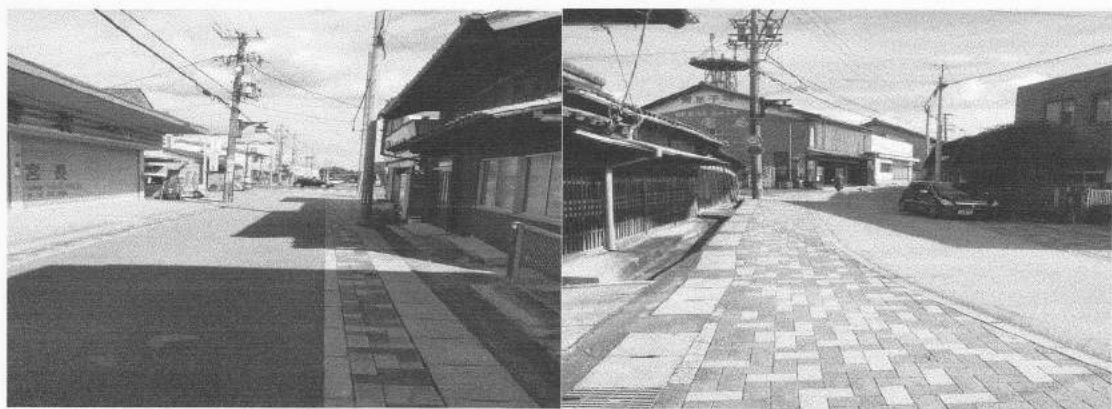
* 近畿大学工業高等専門学校 都市環境コース

** 同上 専攻科土木工学系2年

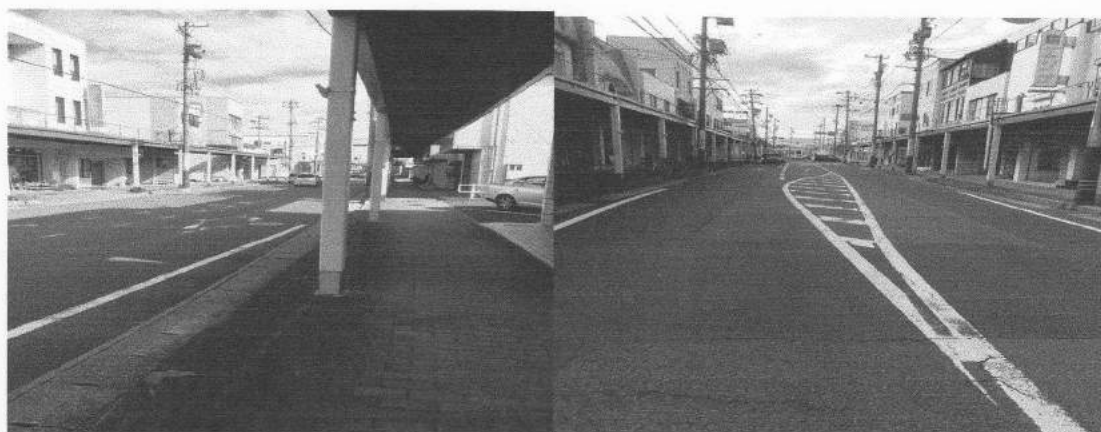
環境点検調査は、旧市街地である西町住宅街と東町商店街の、街空間のそれぞれ良い点や悪い点など環境状況を踏



図一 西町住宅街環境点検マップ



写真一 西町住宅街メインストリート



写真一 東町商店街メインストリート

査し、地図上に記載し環境点検マップを作成した。

2. 1 西町住宅街の状況

図一1は、西町住宅街環境点検マップである。

西町住宅街は、旧東海道沿いの伝統的な街空間であり、観光客などの来訪者が散策するには良い街空間である。

しかし、休日であるにもかかわらず、歩いている観光客などは少なく閑散とした印象を受ける（写真一1）。

2. 2 東町商店街の状況

図一2は、東町商店街環境点検マップである。

東町商店街は、静かな場所なのでアート作品を展示し、見て回るには良い場所である。

しかし、空き店舗・空き屋・倉庫等が多く、シャッター通り商店街といった印象を受ける。

こちらも休日であるにもかかわらず、歩いている買い物客などは少なく閑散とした印象を受ける（写真二2）。

3. 商店分布調査結果

商店分布調査は、旧市街地である西町住宅街と東町商店街を踏査し、商店（小売業、サービス業、飲食店）、空き店舗・空き屋・倉庫等に分類し、地図上に記載した。

3. 1 西町住宅街の状況

図一3は、西町住宅街商店分布図である。

西町住宅街の旧館家（市文化財）から東町商店街入り口までのメインストリートを示している。斜線が商店、白枠が空き店舗・空き屋・倉庫等を示している（住宅を除く）。

西町住宅街には、商店は少なく、小売業が5軒、飲食店が1軒である。また、空き店舗・空き屋・倉庫等は7軒である。

3. 2 東町商店街の状況

図一4は、東町商店街商店分布図である。

東町商店街のメインストリートを示している。斜線が商店、白枠が空き店舗・空き屋・倉庫等を示している（住宅を除く）。

小売業が18軒、サービス業が14軒、飲食店が2軒である。また、空き店舗・空き屋・倉庫等は18軒あり、空き店舗等の未利用の建物が目立つ。

4. アンケート調査結果

東町商店街の商店や元商店等の32軒を対象に「亀山トリエンナーレ・アート亀山に関するアンケート調査」を

実施した。有効回収率は100%であった。

アンケート回答者の男女比率は同じであった。

表一1は、商店の業種構成を示す。

商店を小売業、サービス業、飲食店、その他（複合業種や寺院など）に分類したものである。

小売業18軒、サービス業4軒、飲食店2軒、その他8軒である。

東町商店街の過半数の商店が小売業である。

表一2は、回答者の年齢構成を示す。

商店経営者の半数が、60代以上の高齢者である。

また、後継者不足問題もあってか、40代未満の若手商店経営者は少ない。

表一3は、アート亀山の効果（複数回答）を示す。

まちづくりにおけるアート亀山の効果については、商店経営者の多くが、アーティスト（作品作家）、来場者、商店同士・地域住民との「交流」ができたことを評価している。

また一方で、「特に何もない」という回答も目立ち、「売上げにつながった」という回答は少ない。

5. まとめ

アート亀山の開催場所となっている亀山市旧市街地（西町住宅街及び東町商店街）は、コミュニティアートプロジェクトを開催する場所としては、最適な場所であるということが言える。

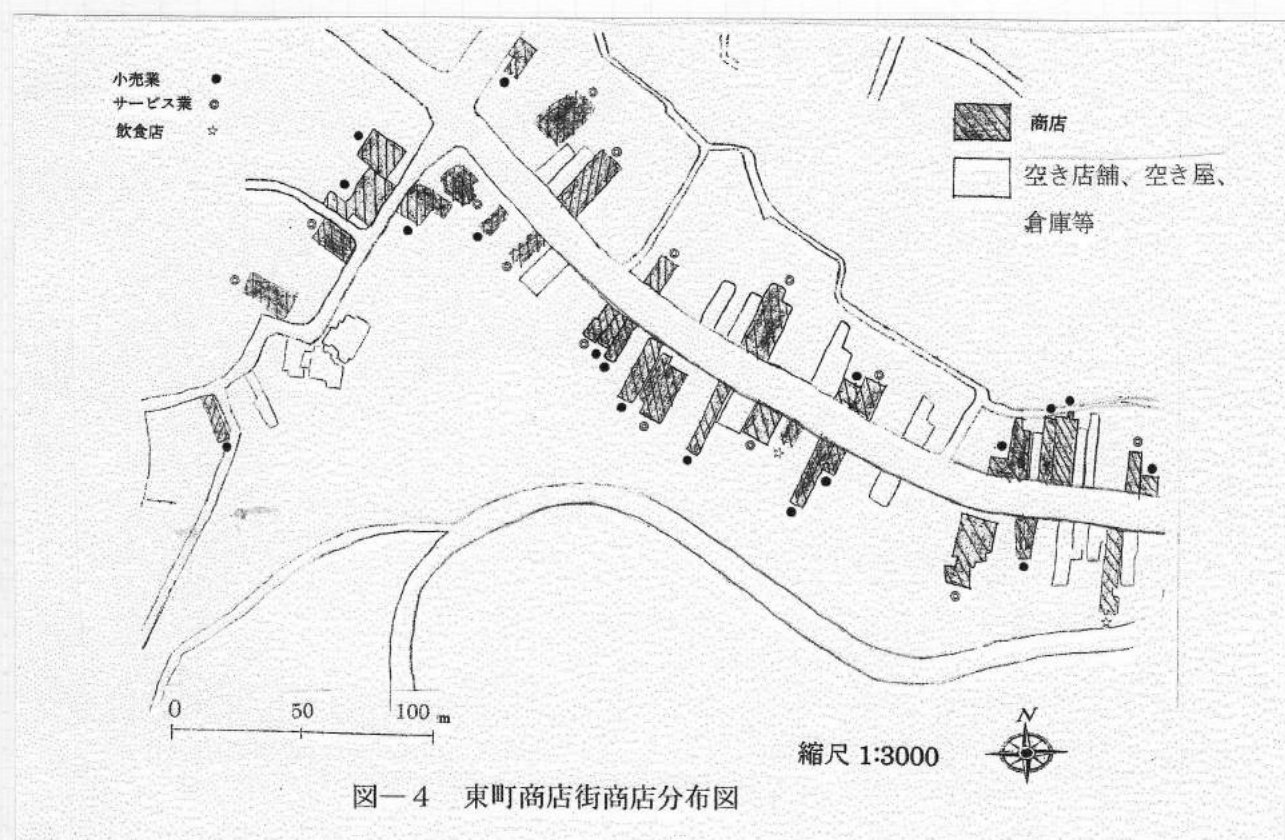
理由として、まち全体が静かで落ち着いた雰囲気のある亀山市旧市街地には、旧東海道の歴史的伝統的町並みが残っており、市文化財となっている古民家等を展示会場として利用できる点、また、商店以外でも旧市街地にある空き店舗等を展示会場として利用できる点などがあげられる。

2008年のアート亀山スタート時から会場となっている東町商店街の商店経営者の多くは、アート亀山の開催により、アーティスト、来場者、商店同士・地域住民などとの新たな交流を得たことを評価している。

アートプロジェクト開催に積極的な商店経営者が多いことがわかり、今後の発展が期待できる一方で、商店としての金銭的な利益がないためか、あまり関心がない商店経営者もわずかながらいることも分かった。

コミュニティアートプロジェクトであるアート亀山は、旧市街地のまちづくりにおける、人と人との交流など社会的活性化に大きく寄与していると言える。

これを経済的活性化にどうつなげるかは今後の課題で



表—1 商店の業種構成

	回答数	構成比(%)
小売業	18	56
サービス業	4	13
飲食店	2	6
その他	8	25
計	32	100

表—2 回答者の年齢構成

	回答数	構成比(%)
20代～	0	0
30代～	1	3
40代～	7	22
50代～	8	25
60代～	12	38
70代以上	4	12
計	32	100

表—3 アート亀山の効果（複数回答）

	回答数	構成比(%)
アーティスト（作品作家）との交流ができた	17	30
来場者との交流ができた	11	20
商店同士や地域の方々との交流ができた	5	9
売り上げにつながった	3	5
地域の魅力を再認識できた	3	5
地域活性化やまちづくりに関心をもつようになった	6	11
特に何もない	9	16
その他	2	4
計	56	100

あるが、そのためには、地域住民や商店をはじめ地域関係者の積極的な情報交流と参加・協働、プロジェクト・イベントの質的量的向上と全国的知名度アップ、運営資金の確保、行政や商工団体等の公的支援、IT を駆使した情報発信などを推進することも必要である。

謝辞

現地調査に快くご協力いただいた、アートによる街づくりを考える会の方々、アーティストの方々、商店街の方々等、関係各位に心より感謝いたします。

参考文献

- 1) (株)日本政策投資銀行大分事務所, 現代アートと地域活性化－クリエイティブシティ別府の可能性－, 2010 年 9 月
- 2) 長畑 実, 枝廣 可奈子, 現代アートを活用した地域の再生・創造に関する研究－直島アートプロジェクトを事例として－, 大学教育第 7 号(2010)
- 3) 青木 繁, アートを活用したまちづくりに関する研究－中心市街地活性化の視点から－, 日本高専学会第 18 回年会講演会講演論文集, 2012
- 4) 青木 繁, 地方小都市商店街の活性化について－空き店舗の利活用の視点から－, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (2015 年 9 月)
- 5) 堀切 梨奈子, 佐藤 慎也, まちなかにおける芸術活動に関する研究－場の利用と参加態度を通して－, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (2012 年 9 月)
- 6) 倉知 徹, 地域づくり活動における地域交流促進を目的としたアートワークショップの効果－兵庫県播磨町での取り組みを事例に－, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (2011 年 8 月)
- 7) 奥田 宗幸, 鶴飼 修, 生活観光まちづくりと連動したアートプロジェクトの企画と実践－2012 年度：大森アート・ヴィレッジプロジェクトを事例として－, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (2013 年 8 月)
- 8) 林 宏美, 佐々木 一泰, コミュニティにおけるワークショップの実践と考察－大津市石山商店街における石山アートプロジェクトを事例として－, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (2011 年 8 月)
- 9) 内野孝太, 堀切梨奈子, 佐藤慎也, 生活の場におけるアート活動と市民参加－アートプロジェクトにおける市民参加に関する研究その 1－, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (2014 年 9 月)
- 10) 堀切梨奈子, 佐藤慎也, 東京アートポイント計画を事例とした参加方法類型と参加要因－アートプロジェクトにおける市民参加に関する研究その 2－, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (2014 年 9 月)
- 11) 鈴木 綾子, 伊藤 史子, 個人嗜好を考慮した訪問エリア選択支援システムの提案－越後妻有大地の芸術祭における実証実験を事例として－, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (2011 年 8 月)
- 12) 橋本敏子, 地域の力とアートエネルギー, 学陽書房, 1997 年 2 月
- 13) 本田洋一, アートの力と地域イノベーション, 水曜社, 2016 年 3 月